

平成 27 年度 蔵書診断(英語関連) 結果報告

診断領域 英語(NDC 830~839)

診断者 県内高等学校 教諭 2名

診断時期 平成 27 年 11 月 17 日、25 日

診断方法 各分野の開架の蔵書を診断者が確認し、蔵書の専門度、気づいた点を蔵書評価書に記入する。

洋書(英語)について

- ・コンピュータ関係が古いので、新しいものが、幅広くほしい。
- ・Biography に、Steve Jobs など最近の人のものがほしい。
- ・環境学的な(環境問題や公害など)本が見つけれなかったため、各分野でまとめてあるとよい。
- ・J・J トールキン(著作:指輪物語など)のシリーズは本が古そうで、読む気にならない。映画化もされているので、ハードカバーのものがあれば、学生も手に取るのでは。
- ・文学の古典があるのはいいが、若い人に手に取ってもらうには、話題性のあるものを積極的に入りたい。
- ・洋書は全体を通して専門的である。
- ・日本の文化や慣習に関するものがもっとあるとよい。また、揃えるならば目立つように置いてほしい。
- ・英語学習者を対象とするのであれば、難易度のレベルが視覚的にわかるように、分けてあると手取りやすい。(色の違うシールを貼るなど)
- ・誰を対象としているのかがよくわからない。
- ・難しい本と読みやすい本が混在しているため、何から選んでいいのかわからない。

英語関連資料(830)について

- ・全体的に、すでに英語を勉強している人向けのものが多い。どちらかというと、専門的。
- ・コロケーション(使われ方)に関する辞書・辞典がもっとほしい。
- ・映画の字幕を利用した本が最近多く出ているので、入るといいと思う。
- ・低年齢用に、Picture Dictionary を置いてもよい。
- ・アルク関係の図書が全くない。
- ・文法書は、シリーズで完結したもの(出版社が同じもの)がほしい。
- ・英語を話す国は(米英以外にも)多くある。フィリピン・インド等の英語本もあるとよい。
- ・言語学系の研究書が少ない。純粋に英語学を勉強する大学生にとって、数が足りないのでは。
- ・英語学習の本と、英語教育学の本が混在しているので、分けるとよい。
- ・TOEICやTOEFL関係の本は需要があるので、もっと最新のものを、たくさん入れてはどうか。
- ・英文レターの本は古い。インターネットでのEメールが主流になってきているので、これらの本がも

っとほしい。

- ・副読本は数冊あるが、これらは読みやすいので、タイムリーなもの揃えれば高校生が手に取りやすいと思われる。
- ・英語が話される地域はアメリカ合衆国だけではない。オーストラリア英語やイギリス英語などの違いに関する本や、アジアの国々で使われる英語についての本ももっとほしい。
- ・方言関係の本に関しては特に、CDがついているともっとよい。

その他、今後の留意点

- ・洋書全体を見たときに、もう少しポルトガル語の書籍があってもよい。県内には多くのブラジル人がいる。
- ・議論の余地はあるが、英訳された漫画を置くことも今後検討してもよいかもしれない。漫画はもはや無視できない存在であり、堂々とした日本の文化でもある。
- ・棚が低く、背の高い人にとって、しゃがんで探すのはつらい。外国人であれば尚更。ただ、すべての利用者の都合を実現させることはできないので、考慮に入れるくらいでよいと思う。
- ・洋書の多さに驚いたが、あまり使われていないようで、もったいない。
- ・話題になっているもの、人気のあるもの(ハリー・ポッターシリーズなど)は、棚の上などの目立つところに置いたりすると、読む人は増える。

[今後実施予定]

- ・上記の最新にしてほしい資料および充実させたいまたは不足している資料については出版状況および蔵書構成等を加味し選書、購入していく。